

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	明石工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科				8	9	7	
	電気情報工学科 電気電子工学コース			1	12	13	7	
	電気情報工学科 情報工学コース				13	14	7	
	都市システム工学科				23	24	7	
	建築学科				24	25	7	
	機械・電子システム工学専攻				6	2	8	7
	建築・都市システム工学専攻			14		20	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.akashi.ac.jp/life/syllabus

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	明石工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kosen-k.go.jp/about/release/index.html#yakuinmeibo>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	平成28年4月1日～ 令和6年3月31日	理事長
常勤	東京工業大学 理事・副学長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	平成26年4月1日～ 令和2年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	明石工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>															
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 設置者である独立行政法人国立高等専門学校機構(以下、高専機構)が、到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価割合からなる全高専統一のシラバスシステムを作成している。シラバスの作成時期は次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>10月中旬頃</td> <td>高専機構にてシラバスシステムの年次更新</td> </tr> <tr> <td>12月末頃まで</td> <td>次年度授業計画表を作成し、それに基づくマスタデータの作成</td> </tr> <tr> <td>2月中旬頃まで</td> <td>科目担当教員によるシラバス入力</td> </tr> <tr> <td>2月下旬頃まで</td> <td>担当委員によるシラバスの点検</td> </tr> <tr> <td>2月末頃まで</td> <td>点検結果に基づく修正</td> </tr> <tr> <td>3月末頃まで</td> <td>入力状況等の確認</td> </tr> <tr> <td>4月1日</td> <td>シラバスの外部公開</td> </tr> </table> <p>シラバス作成にあたり、毎年度シラバス作成手順書を更新し、入力完了後は担当委員による点検を行っている。 なお、実務経験のある教員等による授業科目については、シラバスの教育方法の項目にその旨が記載されている。</p>		10月中旬頃	高専機構にてシラバスシステムの年次更新	12月末頃まで	次年度授業計画表を作成し、それに基づくマスタデータの作成	2月中旬頃まで	科目担当教員によるシラバス入力	2月下旬頃まで	担当委員によるシラバスの点検	2月末頃まで	点検結果に基づく修正	3月末頃まで	入力状況等の確認	4月1日	シラバスの外部公開
10月中旬頃	高専機構にてシラバスシステムの年次更新														
12月末頃まで	次年度授業計画表を作成し、それに基づくマスタデータの作成														
2月中旬頃まで	科目担当教員によるシラバス入力														
2月下旬頃まで	担当委員によるシラバスの点検														
2月末頃まで	点検結果に基づく修正														
3月末頃まで	入力状況等の確認														
4月1日	シラバスの外部公開														
授業計画書の公表方法	シラバスとしてホームページに掲載 https://www.akashi.ac.jp/life/syllabus														
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>															
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 定期試験後、シラバスに記載された評価方法・評価割合に従って、ルーブリックで設定された到達レベルに対する評価を行い、客観的に単位の認定を行っている。 「学則」、「学業成績の評価等に関する規程」及び「学業成績の評価等に関する規程施行細則」により、成績評価や単位認定の基準を示し、教員会で審議のうえ進級・卒業・修了を認定している。 また、授業アンケートを年2回実施し、学生の学習意欲の把握に努めている。</p>															
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>															
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 客観的な指標について「学業成績の評価等に関する規程」及び「学業成績の評価等に関する規程施行細則」に記載されており、規程を公表している。 履修科目の成績評価は100点法による評点とし、平均点で学科・コース毎に順位付けを行う。平均点は、学年の課程修了に必要な科目のみで計算しており、評点の和を科目数で除し算出している。</p>															

<p>また、成績分布状況の把握については、成績一覧表や指導連絡票を用いた指導連絡会議等を行い、成績状況の把握を適宜行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>(規程の掲載ページ) https://www.akashi.ac.jp/life/handbook (成績評価・単位認定等) https://www.akashi.ac.jp/life/evaluate</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 各学科の卒業認定の方針、専攻科の修了認定の方針は、次のとおりである。 「学業成績の評価等に関する規程」に定める基準を満たしているかどうかの判定は、教員会で審議している。</p> <p>(学科) ディプロマ・ポリシー 次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会について広く理解し、専門分野に対する基礎知識を修得している。 2. 専門的スキルや汎用的スキルを用いた問題解決ができる。 3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。 4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。 <p>(専攻科) ディプロマ・ポリシー 次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に修了を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会について広く理解し、複数の専門分野に対する基礎知識を修得している。 2. 工学的な様々な問題に対して、専門的スキルや汎用的スキルを用いて自ら目標を設定し、それらを解決することができる。 3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。 4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.akashi.ac.jp/guide/policy</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	明石工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH29.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H29jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:平成31年度(2019年度))
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-h31.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation/h28

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.akashi.ac.jp/guide/evaluation/niad_h30

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的 (公表方法: 学生生活のてびき—学則第 7 条の 2 https://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/19-kisoku-01.pdf)
(概要) 機械をはじめとする「もの」を対象に、その開発、設計、製造など広範囲な開発・技術部門において十分に対応できる能力を育成するため、機械系の応用力学、材料、生産技術や制御などに関する基礎教育を重点的に行う。さらに、機械工学実験、設計製図、工作実習、プログラミングなどの実習教育をきめ細かく行うとともに、応用展開科目や開発研究を適切に教授することにより、新しい技術発展にも柔軟に対応できる創造性豊かな実践的技術者の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.akashi.ac.jp/mechanical/policy)
(概要) 次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。 1. 自然・文化・社会について広く理解し、専門分野に対する基礎知識を修得している。 2. 専門的スキルや汎用的スキルを用いた問題解決ができる。 3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。 4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: https://www.akashi.ac.jp/mechanical/policy)
(概要) 一般科目と専門科目を低学年から高学年まで体系的に配置したカリキュラムにより、基礎知識・スキルの修得から創造力・問題解決能力の養成まで一貫した構想の下に教育を行います。 1. 自然・文化・社会に対する理解と専門分野の基礎知識を修得できるよう、自然科学系科目、人文社会系科目および工学分野の専門科目による系統的な学習の機会を提供する。 2. 問題解決のための幅広いスキルを修得できるよう、実験・実習やコミュニケーションに関する実践的な学習の機会を提供する。 3. 協働を通して主体的・能動的に社会に貢献する能力を身に付けられるよう、グループによる学習や継続的に課題に取り組む機会を提供する。 4. 社会の変化に対応できる創造力を身に付けられるよう、基礎的な知識・スキルを活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会を提供する。 5. 学生が学習の過程において自身の達成度を把握できるよう、成績評価方法を記したシラバスを公開する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: https://www.akashi.ac.jp/mechanical/policy)
(概要) 自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。 1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人 2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人 3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人 選抜方針は以下のとおりです。 ・推薦選抜 中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲の

<p>ある人を選抜します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力選抜 中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。 ・帰国子女特別選抜 中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。
--

<p>学部等名 電気情報工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびき－学則第7条の2 https://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/19-kisoku-01.pdf）</p>
<p>（概要） 高度情報化社会を支える重要な要素である電気情報関連分野において、広範化・高度化する技術に対応するために必要な電気、電子、情報、通信分野の基礎教育を第1学年から第3学年において行う。さらに、第4学年及び第5学年では電気電子工学コースにおいてエネルギー工学、制御工学、通信工学、電子物性工学、また情報工学コースにおいて情報ネットワーク、情報理論、プログラミング、ソフトウェア工学等の応用科目を教授する。これらの教育により電気情報関連分野の全般に渡る基礎的能力を持ち、かつ電気電子あるいは情報分野に関する高度な能力を持つ幅広い分野に対応できる技術者の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.akashi.ac.jp/electrical/policy）</p>
<p>（概要）次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会について広く理解し、専門分野に対する基礎知識を修得している。 2. 専門的スキルや汎用的スキルを用いた問題解決ができる。 3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。 4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.akashi.ac.jp/electrical/policy）</p>
<p>（概要）一般科目と専門科目を低学年から高学年まで体系的に配置したカリキュラムにより、基礎知識・スキルの修得から創造力・問題解決能力の養成まで一貫した構想の下に教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会に対する理解と専門分野の基礎知識を修得できるよう、自然科学系科目、人文社会系科目および工学分野の専門科目による系統的な学習の機会を提供する。 2. 問題解決のための幅広いスキルを修得できるよう、実験・実習やコミュニケーションに関する実践的な学習の機会を提供する。 3. 協働を通して主体的・能動的に社会に貢献する能力を身に付けられるよう、グループによる学習や継続的に課題に取り組む機会を提供する。 4. 社会の変化に対応できる創造力を身に付けられるよう、基礎的な知識・スキルを活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会を提供する。 5. 学生が学習の過程において自身の達成度を把握できるよう、成績評価方法を記したシラバスを公開する。
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.akashi.ac.jp/electrical/policy）</p>

<p>(概要) 自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人 2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人 3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人 <p>選抜方針は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜 中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。 ・学力選抜 中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。 ・帰国子女特別選抜 中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験をもち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。
--

<p>学部等名 都市システム工学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびきー学則第7条の2 https://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/19-kisoku-01.pdf）</p>
<p>(概要) 国土や地域の開発、防災、交通網・インフラ整備、環境保全など、人間の豊かな社会生活を支える都市基盤を創造するのに必要な測量学、構造力学、水工学、地盤工学、計画学、コンピュータ技術、材料工学、防災工学、環境工学分野の基礎理論を教授するとともに、工学実験、コミュニケーションスキル、建設マネジメントなどの実践的なエンジニアリングデザイン教育を行うことにより、高度な専門基礎学力と自主的問題解決能力を備え、国際社会に貢献できる創造性豊かな技術者の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/civil/policy)</p>
<p>(概要) 次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会について広く理解し、専門分野に対する基礎知識を修得している。 2. 専門的スキルや汎用的スキルを用いた問題解決ができる。 3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。 4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/civil/policy)</p>
<p>(概要) 一般科目と専門科目を低学年から高学年まで体系的に配置したカリキュラムにより、基礎知識・スキルの修得から創造力・問題解決能力の養成まで一貫した構想の下に教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会に対する理解と専門分野の基礎知識を修得できるよう、自然科学系科目、人文社会系科目および工学分野の専門科目による系統的な学習の機会を提供する。 2. 問題解決のための幅広いスキルを修得できるよう、実験・実習やコミュニケーションに関する実践的な学習の機会を提供する。 3. 協働を通して主体的・能動的に社会に貢献する能力を身に付けられるよう、グループによる学習や継続的に課題に取り組む機会を提供する。 4. 社会の変化に対応できる創造力を身に付けられるよう、基礎的な知識・スキルを活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会を提供する。

5. 学生が学習の過程において自身の達成度を把握できるよう、成績評価方法を記したシラバスを公開する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/civil/policy)</p>
<p>(概要) 自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人 2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人 3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人 <p>選抜方針は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜 中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。 ・学力選抜 中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。 ・帰国子女特別選抜 中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

<p>学部等名 建築学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびきー学則第7条の2 https://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/19-kisoku-01.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>人間生活の基盤である住宅や建築施設を歴史、文化、自然環境や多様な社会との調和のうちに創造するために、計画系、構造系、環境系の専門分野に関する基礎知識として建築計画、建築史、構造力学、建築工学実験、環境工学や情報処理科目などを教授する。さらに、これらを総合する科目として建築設計演習や建築構造演習などがある。基礎と応用の教育を通して工学的基礎知識と幅広い教養を併せ持ち、芸術的要素と技術的要素を統合する豊かな創造力と総合力を持つ人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/architecture/policy)</p>
<p>(概要) 次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会について広く理解し、専門分野に対する基礎知識を修得している。 2. 専門的スキルや汎用的スキルを用いた問題解決ができる。 3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。 4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/architecture/policy)</p>

<p>(概要) 一般科目と専門科目を低学年から高学年まで体系的に配置したカリキュラムにより、基礎知識・スキルの修得から創造力・問題解決能力の養成まで一貫した構想の下に教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会に対する理解と専門分野の基礎知識を修得できるよう、自然科学系科目、人文社会系科目および工学分野の専門科目による系統的な学習の機会を提供する。 2. 問題解決のための幅広いスキルを修得できるよう、実験・実習やコミュニケーションに関する実践的な学習の機会を提供する。 3. 協働を通して主体的・能動的に社会に貢献する能力を身に付けられるよう、グループによる学習や継続的に課題に取り組む機会を提供する。 4. 社会の変化に対応できる創造力を身に付けられるよう、基礎的な知識・スキルを活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会を提供する。 5. 学生が学習の過程において自身の達成度を把握できるよう、成績評価方法を記したシラバスを公開する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/architecture/policy)</p>
<p>(概要) 自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人 2. 総合的な基礎学力を持ち、理数系科目および英語が得意な人 3. さまざまな実験や実習に周囲と協働して取り組める人 <p>選抜方針は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜 中学校等を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより在籍する中学校等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意であり、さまざまな実験や実習に周囲と協働して主体的に取り組む意欲のある人を選抜します。 ・学力選抜 中学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、そのうち特に数学および英語が得意である人を選抜します。 ・帰国子女特別選抜 中学校等を卒業（見込み含む）した者で、一定の海外経験を持ち、本校での修学に必要な総合的な学力および基礎的な日本語能力を有し、そのうち特に理数系科目および英語が得意である人を選抜します。

<p>学部等名 専攻科機械・電子システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびきー学則第47条の2 https://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/19-kisoku-01.pdf）</p>
<p>(概要) 機械及び電子システムの設計開発に必要な応用工学系基幹科目やより高度な工学知識を教授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観とコミュニケーション能力を備え、先端的な生産システムや工業製品の創造開発に貢献できる技術者の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy)</p>
<p>(概要) 次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に修了を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会について広く理解し、複数の専門分野に対する基礎知識を修得している。 2. 工学的な様々な問題に対して、専門的スキルや汎用的スキルを用いて自ら目標を設定し、それらを解決することができる。

<p>3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。</p> <p>4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy)</p> <p>(概要) 一般教養科目、専門共通科目および専門展開科目を体系的に配置したカリキュラムにより、基礎知識・スキルの修得から創造力・問題解決能力の養成まで一貫した構想の下に教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会に対する理解と専門分野の基礎知識を幅広く修得し、国際的に活躍できるように自然科学系科目、人文社会系科目および複数の工学分野の専門科目による系統的な学習の機会を提供する。 2. 問題解決のための幅広いスキルを修得できるよう、実験・実習やコミュニケーションに関する実践的な学習および学外における社会学習の機会を提供する。 3. 協働を通して主体的・能動的に社会に貢献する能力を身に付けられるよう、グループによる学習や継続的に課題に取り組む機会を提供する。 4. 社会の変化に対応できる創造力を身に付けられるよう、基礎的な知識・スキルを活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会を提供する。 5. 学生が学習の各段階で自身の達成度を把握できるよう、成績評価は複合的に行うことを原則とし、その方法を記したシラバスを公開する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy)</p> <p>(概要) 自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人 2. 総合的な基礎学力および専門分野の基礎能力を身に付けている人 3. 自己の専門分野以外も学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人 <p>選抜方針は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜：学校長推薦 高等専門学校を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。 ・推薦選抜：社会人特別推薦 高等専門学校を卒業し、企業等に在職する者で、勤務成績・人物ともに優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。 ・学力選抜 高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。
<p>学部等名 専攻科建築・都市システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学生生活のてびきー学則第47条の2 https://www.akashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/19-kisoku-01.pdf)</p> <p>(概要) 都市環境及び建築環境を合理的に計画、設計、構築するのに必要な計画学、構造力学、環境工学の分野を教授・研究し、併せて応用的な実技・実習を課すことにより、倫理観、コミュニケーション能力を備え、創造力豊かなエンジニアリングデザイン能力を持ったより高度な専門技術者の養成を目的とする。</p>

<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy)</p> <p>(概要) 次に示すような素養を身につけ、学業成績の評価等に関する規程に定める基準を満たした学生に修了を認定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会について広く理解し、複数の専門分野に対する基礎知識を修得している。 2. 工学的な様々な問題に対して、専門的スキルや汎用的スキルを用いて自ら目標を設定し、それらを解決することができる。 3. 協働の中で個人の能力を発揮し、継続的に学習し、技術者としての倫理と責任を持って主体的・能動的に行動できる。 4. 多様化する社会を俯瞰的に把握し、創造的に思考できる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy)</p> <p>(概要) 一般教養科目、専門共通科目および専門展開科目を体系的に配置したカリキュラムにより、基礎知識・スキルの修得から創造力・問題解決能力の養成まで一貫した構想の下に教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然・文化・社会に対する理解と専門分野の基礎知識を幅広く修得し、国際的に活躍できるように自然科学系科目、人文社会系科目および複数の工学分野の専門科目による系統的な学習の機会を提供する。 2. 問題解決のための幅広いスキルを修得できるよう、実験・実習やコミュニケーションに関する実践的な学習および学外における社会学習の機会を提供する。 3. 協働を通して主体的・能動的に社会に貢献する能力を身に付けられるよう、グループによる学習や継続的に課題に取り組む機会を提供する。 4. 社会の変化に対応できる創造力を身に付けられるよう、基礎的な知識・スキルを活用して主体的・能動的に取り組む総合的な学習の機会を提供する。 5. 学生が学習の各段階で自身の達成度を把握できるよう、成績評価は複合的に行うことを原則とし、その方法を記したシラバスを公開する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.akashi.ac.jp/advanced/policy)</p> <p>(概要) 自由な校風のなかで夢を育み、将来を自ら切り拓いていこうとする意志を持った次のような学生の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術者として活躍したいと強く希望を持っている人 2. 総合的な基礎学力および専門分野の基礎能力を身に付けている人 3. 自己の専門分野以外も学習する意欲があり、自然や社会との共生に関心のある人 <p>選抜方針は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦選抜：学校長推薦 高等専門学校を卒業（見込み含む）した者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。 ・推薦選抜：社会人特別推薦 高等専門学校を卒業し、企業等に在職する者で、勤務成績・人物ともに優秀であることにより所属企業等の長の推薦を受け、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、自己の専門分野以外も学習する意欲を持ち、自然や社会との共生に関心のある人を選抜します。 ・学力選抜 高等専門学校等を卒業（見込み含む）した者で、本校での修学に必要な総合的な学力を有し、当該専攻への関心が明白・適切であり、特に数学、英語、当該専攻の専門科目が得意である人を選抜します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.akashi.ac.jp/guide/organization>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
機械工学科	－	5人	5人	0人	0人	0人	10人
電気情報工学科	－	7人	3人	0人	0人	0人	10人
都市システム工学科	－	5人	2人	0人	2人	0人	9人
建築学科		3人	4人	1人	1人	0人	9人
一般科目		8人	9人	1人	1人	0人	19人
専攻科	－	1人	1人	0人	0人	0人	2人
校長付	－	1人	1人	1人	4人	0人	7人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		53人					53人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： https://www.akashi.ac.jp/education-and-research/researcher ※Researchmap から提供されている情報						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本校における FD はイノベーションオフィス内に設置されたアクティブラーニングセンターの FD 部門が企画、実施を行っている。教育内容・方法等については、対外的な授業の公開・参観の実施による意見収集や学生向け全科目の授業アンケートによる授業改善を継続的に行っている。また、学年学科横断型 PBL 科目を全教員で担当しており、コーチングやファシリテーション研修を毎年実施し、教員の資質能力向上を図っている。研究方法については、卒業研究の質保証に向けた FD を実施し、評価方法や根拠資料の保管と共有方法を議論し、卒業研究の質向上につなげている。</p>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40人	42人	105.0%	200人	213人	106.5%	若干名	0人
電気情報工学科	40人	43人	107.5%	200人	210人	105.0%	若干名	2人
都市システム工学科	40人	42人	105.0%	200人	213人	106.5%	若干名	3人
建築学科	40人	42人	105.0%	200人	208人	104.0%	若干名	0人
合計	160人	169人	105.6%	800人	844人	105.5%	若干名	5人
機械・電子システム工学専攻	8人	13人	162.5%	16人	21人	131.3%	-	-
建築・都市システム工学専攻	8人	8人	100.0%	16人	19人	118.8%	-	-
合計	16人	21人	131.3%	32人	40人	125.0%	-	-

(備考)

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	42人 (100%)	27人 (64.3%)	14人 (33.3%)	1人 (2.4%)
電気情報工学科	40人 (100%)	30人 (75.0%)	8人 (20.0%)	2人 (5.0%)
都市システム工学科	43人 (100%)	21人 (48.8%)	20人 (46.5%)	2人 (4.7%)
建築学科	46人 (100%)	30人 (65.2%)	15人 (32.6%)	1人 (2.2%)
機械・電子システム工学専攻	17人 (100%)	7人 (41.2%)	9人 (52.9%)	1人 (5.9%)
建築・都市システム工学専攻	16人 (100%)	11人 (68.8%)	4人 (25.0%)	1人 (6.2%)
合計	204人 (100%)	126人 (61.8%)	70人 (34.3%)	8人 (3.9%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

- ・進学先：北海道大学、筑波大学、東京大学、横浜国立大学、大阪大学、神戸大学、京都工芸繊維大学、和歌山大学、岡山大学、広島大学、九州大学など
- ・就職先：川崎重工業(株)、三菱重工業(株)、大阪ガス(株)、関西電力(株)、オムロン(株)、西日本旅客鉄道(株)、国土交通省、警察庁、防衛省、兵庫県庁、明石市役所など

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを策定し、これに基づいた教育課程表を作成し、行事予定表に基づき授業を実施している。

授業科目、授業の方法及び内容については、全高専統一のシラバスシステムを用いて、到達目標、ルーブリック、教育方法、授業計画、評価割合からなる全高専統一のシラバスシステムを作成している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本科卒業については、最終学年の学年末に、卒業要件ごとに修得単位を集計した卒業判定資料を作成し、教員会にてディプロマ・ポリシーや修得単位数等を踏まえ卒業を認定している。

なお、本科卒業要件については、「学業成績の評価等に関する規程」にて記載されており、次のとおりである。

【「学業成績の評価等に関する規程」より抜粋】

- (1) 欠席時数が各科目及び特別活動について定める時数未満であること。
- (2) 当該学年の標準修得科目のすべてについて、50点未満の科目がないこと。
- (3) 当該学年までの標準修得単位数の合計から9単位を減じた単位数以上を、標準修得科目で修得していること。
- (4) 卒業研究が60点以上であること。
- (5) 入学以後の自由選択科目を除く修得単位数が、一般科目75単位以上、専門科目82単位以上を含め合計で167単位以上であること。

専攻科修了については、最終学年の定期試験終了後、修得単位を集計した判定資料を作成し、教員会にてディプロマ・ポリシーや修得単位数等を踏まえ修了を認定している。

なお、専攻科修了要件については、「学則」にて記載されており、次のとおりである。

【「学則」より抜粋】

校長は、専攻科に2年以上在学し、所定の授業科目を履修し、別表第4に定める一般教養科目及び専門科目のそれぞれの必要単位数を修得し、62単位以上を修得した者について、修了を認定し、所定の修了証書を授与する。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	167 単位		
	電気情報工学科 電気電子工学コース	167 単位		
	電気情報工学科 情報工学コース	167 単位		
	都市システム工学科	167 単位		
	建築学科	167 単位		
	機械・電子システム工学専攻	62 単位		
	建築・都市システム工学専攻	62 単位		
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.akashi.ac.jp/guide/facility>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
	機械工学科	234,600円	84,600円	154,800円～ 245,400円	その他内訳： 学生会入会金 2,000円、学生会費 4,800円、後援会入会金 15,000円、後援会費 26,000円、 【専攻科除く】教科書・教材教具等(学科により異なる)約 92,000～170,000円、1年合宿研修旅行 約 15,000円、※寄宿料 9,600円、※入寮費 3,000円 ※は寮生のみ
	電気情報工学科				
	都市システム工学科				
	建築学科				
	機械・電子システム工学専攻	234,600円	84,600円	47,800円	
	建築・都市システム工学専攻				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要) 【「平成 30 年度実施高等専門学校機関別認証評価評価報告書 P. 14～P. 15」から抜粋】</p> <p>履修指導のガイダンスを学科生・専攻科生・編入学生・留学生・障害のある学生に対して、毎年 3 月に入学前に実施している。また、準学士課程の 3、4 年次生に対しては、選択科目ガイダンスを実施している。</p> <p>実習工場の利用に関するガイダンスとして、1 年次の初回授業で利用方法等の講習を行っている。</p> <p>図書館の利用に関しては、入学直後の諸説明において、各クラス担任から図書館の説明・資料配布を行っている。</p> <p>学生の自主的学習を支援するため、準学士課程では担任制、専攻科課程では指導教員制の導入、オフィスアワーの設定、学生相談室の対面型の相談受付体制、電子メール等によるハラスメント相談受付体制、資格試験・検定試験等の支援体制、グローバルエデュケーションセンターによる外国留学に関する支援体制等を整備している。</p> <p>学習支援に関して学生のニーズを把握するための取組として、準学士課程では担任制、専攻科課程では指導教員制の導入、意見投書箱、授業アンケートを実施している。このうち、意見投書箱で把握した学生の学習環境等に関する様々なニーズについては、四半期ごとにグループウェアに対応を掲載するとともに、改善を図る取組を行っている。(中略)</p> <p>障害のある学生に対しては、明石工業高等専門学校特別修学支援体制要項及び身体障害又は発達障害のある学生に対する特別修学支援要領に基づき、支援体制を整備し、必要な支援を行っている。(中略)</p> <p>経済面では、奨学金・授業料減免・授業料徴収猶予制度を整備している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要) 【「平成 30 年度実施高等専門学校機関別認証評価評価報告書 P. 15」から抜粋】</p> <p>就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制を整備しており、進路指導計画を作成し、学年ごとに目標を設定し、キャリア教育に関する研修会、講演会、進路指導ガイダンス、進学・就職説明会、資格試験・検定試験のための補習授業、資格取得による単位認定等を行っており、学生の満足度も高いものとなっている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生相談室を中心に保健室に常駐している看護師、学校医、学校薬剤師が連携して学生の健康支援を行っている他、臨床心理士の資格を持つ常勤教員及び非常勤の臨床心理士を相談室に配置し、学生相談にあたりると共に低学年時に授業で心の健康についての講義を実施している。また非常勤のスクールソーシャルワーカー、精神科医が学生支援に携わっている。

【以下「学生生活のてびき平成31年度 P.25」から抜粋】

(5) 健康診断・保健室

○ 健康診断

学校保健安全法に基づいて、毎年4月に、学生の定期健康診断を実施します。

この健診は、学生の健康保持、増進をはかり、学校教育の円滑な実施とその成果の確保を目的としているので、全員必ず受診してください。

感染症の発生、その他必要と認められる場合には、臨時に健康診断を行うこともあります。正当な理由や届出なしに健康診断を受けないときは、奨学生の推薦や諸証明の発行を停止することもあります。

○ 保健室

学生の健康の保持管理のために保健室があり、看護師が常勤しています。保健室では学校内で発生した疾病、傷害等に対し応急処置を行いますから、身体に異常を生じた場合、または負傷した場合は速やかに申し出て手当を受けてください。また、随時健康相談に応じていますので、気軽に利用してください。

(6) 学生相談・カウンセリング

本校に在学する間、学習、学校生活、課外活動、寮生活、家庭生活、交友関係、性の問題、人生観、進路等のいろいろな問題に直面し、自分一人では解決できないような悩みを持つことがあるでしょう。

そのようなときに、問題の解決の手助けをするために、次のような学生相談制度を設けています。

○ 学生相談室

(1) 利用案内

毎週月曜日～金曜日(9:00～17:00)に開室しています。

また、月・水・金曜日の12:00～13:00は《ランチルーム》として相談室を開放しています。

随時ワークショップも企画しており、掲示やメールでお知らせしています。

(2) 学生相談室相談員

学生相談室では、5名で相談に応じます。窓口は学生相談室または保健室ですが、相談室員へ直接連絡しても結構です。当日の担当室員や開室時間等の情報は学生玄関掲示板及び学生相談室入口の掲示などでお知らせします。相談員は次のとおりです。(以下省略)

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.akashi.ac.jp/guide/information_disclosure